

5年生 児童 19名	平成26年11月28日(金) 1校時	会場 体育館
	《体育科学学習指導案》 声と動きでボールをつなげ！ ～ソフトバレーボール～	

学習指導要領解説から考える！

～本単元・本時の「内容・ねらい」について～

- 目標**
- (1) 活動を工夫して各種の運動の楽しさや喜びを味わうことができるようにするとともに、その特性に応じた基本的な技能を身につけ、体力を高める。
 - (2) 協力、公正などの態度を育てるとともに、健康・安全に留意し、自己の最善を尽くして運動する態度を育てる。

内容 E ボール運動

- (1) 技能 次の運動の楽しさや喜びに触れ、その技能を身に付けることができるようにする。
ア) ネット型では、簡易化されたゲームで、チームの連係による攻撃や守備によって、攻防をすること
- (2) 態度 運動に進んで取り組み、ルールを守り助け合って運動をしたり、場や用具の安全に気を配ったりすることができるようにする。
- (3) 思考・判断 ルールを工夫したり、自分のチームの特徴に応じた作戦を立てたりすることができるようにする。

※ 部は高学年で重視する内容

「ソフトバレーボール」は、バレーボールに比べてボールが大きく、軽く、柔らかいため、運動が苦手な児童も積極的にボールに触れることができるとともに、比較的意図した通りのプレーがしやすいゲームである。また、ネットをはさんだゲームなので、攻撃と守備が組み立てやすく、作戦やプレーが成功しやすいという特性を持っている。さらには、プレーに切れ目があることで、チーム内でコミュニケーションをとりやすいこと、チームでボールをつなぐゲームのため、一体感や盛り上がり生まれやすいという特性がある。

今回の学習指導要領改訂から…

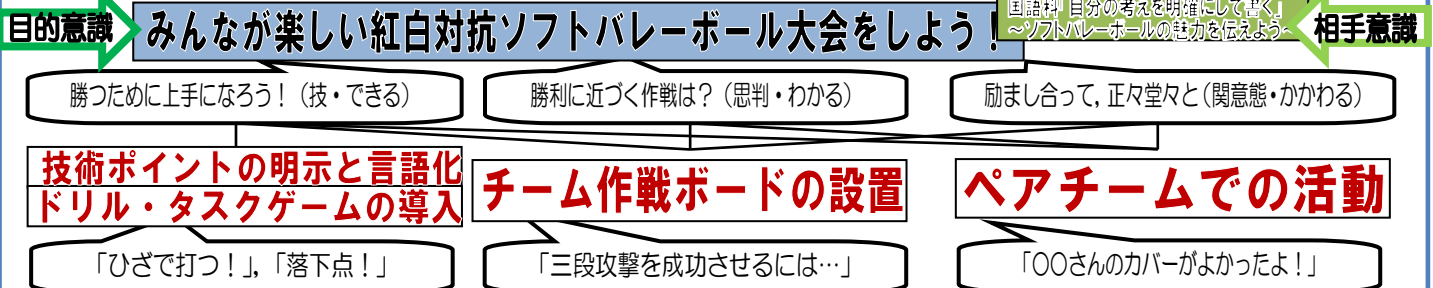
- ① 基礎的な身体能力を身に付け、運動を豊かに実践していくための基礎を培う観点から、発達段階に応じた指導内容の明確化・体系化。
- ② 言語力の育成、思考力・判断力の育成、活用の重視から、各運動領域において、運動の行い方、課題解決の仕方の工夫、作戦を立てることなどを、引き続き規定。

本時の教材分析

教材分析の“今回の切り込み口”

運動量を確保しながらも、「言語活動」を充実することにより、運動に主体的に関わったり、技能や体力を向上させたり、思考力や判断力を高めたりできる授業

今回、〈めざす授業〉は…



見通しを持って活動することで、運動量と言語活動の確保を両立… 学習の流れのパターン化

思考力・判断力 …よい動きを見つめる力・動きの仕組みを理解する力・動きを振り返り、改善したり次の動きに見通しを持ったりして動きの質を高めようとする力

言語活動の二様相 …「**静的な言語活動**」頭で考えてから動きを作る (主にゲームや練習の間)

「**動的な言語活動**」動きながら考える・考えながら動く (主にゲームや練習の中)

おさえ

<児童の実態>

《省略》

<研究の視点>

(1)指導計画の工夫改善

運動会の縦割り組（紅組・白組）を使った、「みんなが楽しい紅白対抗ソフトバレーボール大会を行おう！」を、単元を貫くテーマとすることで、「勝利を手にするために」、「みんなが楽しむために」、どのように時間を使っていけばよいのかを主体的に考え、「自分ごと」として練習を行っていきと思われる。児童の反応や思考の流れを予想し、技能面での系統性を踏まえることで、単元の前半では主に「基礎技能の習得」や、「チームワークの向上やフェアプレー精神の涵養」を目指し、中盤では、後半の対抗戦に向けた「チーム戦術の洗練」に重点を置く構成とした。

さらに、「学習の流れのパターン化」によって、見通しと主体性を持って授業に臨み、効率よく時間を使うことができるようにする。これは、運動量を確保しながらも、児童同士の交流（言語活動）を活発にするために行う工夫である。

同時に、3学期に国語科で行う、「自分の考えを明確にして書く」のコラム執筆（テーマ「高学年への階段」～下級生にソフトバレーボールの魅力伝えよう～）の材料集めも兼ね、毎時間個人の学習カードに、その日自分が成長できたこととその理由、強く印象に残ったこと、苦労したこと、ソフトバレーボールの魅力などをメモしていく。思い入れのある活動をまとめるということで国語科の授業にも深まりや高まりが見られることが期待できるし、もちろん体育の授業の中での技能のメタ認知、思考力・判断力の向上につながると思われる。

(2)伝え合い、深め合う場の設定

<場の設定>

- ①ペアチームでの活動 …互いによさや課題を助言し合える
- ②チーム作戦ボード …ボードを囲んで交流が活発になる
- ③技ポイントコーナー …ポイントをもとに助言し合える

<タイミングの設定>

- ①プレー中…**動**技能や作戦に基づいた動きの見合い・教え合い
・ムードづくりと励まし
- ②「ペアチームゲーム」の後
…**静**技能や作戦の現時点での成否についての助言
- ③「今日のゲーム」の後
…**静**技能や作戦の成否と次時に向けての話し合い

<単元の目標>

- 運動の楽しさや喜びに触れることができるよう、進んで取り組むとともに、ルールを守り助け合って運動をしようしたり、運動する場や用具の安全に気を配ったりすることができる。【関心・意欲・態度】
- ルールを工夫したり、自分のチームの特徴にあった作戦を立て、練習することができる。【思考・判断】
- 攻防をするためのボール操作やボールを持たないときの動きを身に付けることができる。【技能】

<単元計画> (8時間扱い 本時 5/8)

1	<p>みんなが楽しい紅白対抗ソフトバレーボール大会をしよう！ ～「高学年への階段」下級生にソフトバレーボールの魅力伝えよう～</p> <p>はじめのルールを知り、ゲームをやってみよう！</p> <p>これから追究していきたい課題を見つけよう！ チャート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なかなかうまくいかないぞ…技が上手になりたいな。 ・どうすれば勝てるのかな？作戦が必要だね。 ・声をかけあうとやる気も出るし上手になりそう！ <p>技をきたえ、作戦や練習を考え、励まし合っていこう！ ～声と動きでボールをつなぐソフトバレーボール～</p>
2 . 3	<p>主な4つの技のポイントを理解し、マスターしよう！</p> <p>アンダーハンドパス・サーブ (2時間目)</p> <p>オーバーハンドパス・スパイク (3時間目)</p> <p>フィッシュボーン</p> <p>技のポイントの説明と言語化→ドリル練習→タスクゲーム→簡単なゲーム→ふりかえり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手首の少し上に当てて「ひざで打つ」んだね。 ・「落下地点」に素早く移動し、つなぎたい方向に体を向けよう。 ・「おでこの前でウサギの耳」、「三角形の窓」！ <p>技の正確さを高めると、大会で勝つことができそうだね！ 励まし合い・教え合いで上手になってきたぞ！</p>
4 . 5 本時 . 6	<p>チームの良さや課題を踏まえて、より楽しむための作戦を立てたり練習を工夫したりしよう！ ～どのように攻め、どのように守るか～</p> <p>ドリルゲームまたはタスクゲーム→ペアチームゲーム→アドバイスと作戦→練習タイム→紅白対抗ゲーム→ふりかえり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・覚えた技は確実にできるようになってきたね。 ・前の人がいいアタックを打ちたいね。 ・1回目のレシーブがセッターに返っていないよ。 ・3回で、相手のいない所に返すための練習をしよう。 ・「やったね！」、「ナイスレシーブ！」、「いい所にあげたぞ！」 ・作戦を立てたことや練習したことがうまくいっているぞ。 ・次の時には〇〇の連係プレーを目指そうよ！ <p>教え合いや話し合いをしながら、作戦を立てたり練習をしたりすることで、チームの連係も深まり、技も上達してきたぞ！これで大会も楽しめそうだ！</p>
7 . 8	<p>これまでの練習の成果を発揮して、大会を楽しもう！</p> <p>紅白対抗ソフトバレーボール大会① (7時間目) (作戦交流会後の) 紅白対抗ソフトバレーボール大会② (8時間目)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・やった！うまくいったぞ！ ・相手チームはこんなことを考えていたんだ！まねしてもう一度やってみよう！ <p>…以上のように、ソフトバレーボール大会を楽しむには、励まし合い、協力して作戦を考えて練習して、連係を深めたり技術を高めたりして、正々堂々とプレーしていく事が大切だと考えます。</p>

話し合い
の
効果

〈本時の目標〉

○ゲームや話し合いを通じて、ボールを落とさずにいい形でつなぎ、相手コートにいい形で返す上でのチームのよさや課題に気づき、それに応じた作戦を立てて練習したり、そのことを試合で生かそうとしている。 【思考・判断】

〈核となるキーワード〉

- 味方同士でつなぐことに関して … 「声」、「落下点に素早く」、「体の向き」、「セッターに上がるように」
 「ボールに触らない人は次やカバーの準備」、「三段でつながるように」
- 相手コートに落とすことに関して … 「サーブは迷うような所をねらって」、「なるべくスパイクを打つ」

〈本時の展開〉(5/9)

	子どもの学習活動・意識	教師のかかわり (留意点・評価)
<p>と ら え る</p> <p>1 あいさつ・用具の準備・準備運動をする ・コート・ボール・作戦ボードの準備・場の安全確認 ・動き作りを含んだ準備運動</p> <p>2 タスクゲームをする ・スリータッチゲーム</p> <p>3 全体の課題とチームの前のふりかえりを確認する</p> <p>4 前回のふりかえりを生かしてペアチームゲームをする</p> <p>5 ペアチームゲームをふりかえって、よかったところと改善点を伝え合う</p> <p>6 話し合いによって作戦を修正し、それに応じた練習をする</p> <p>めざす子ども像 多面的に見る</p>	<p>〈前時までに獲得した見方や考え方〉 基本となる4つの技（アンダーハンドパス・オーバーハンドパス・アンダーハンドサーブ・スパイク）の習得状況は個によって差がある。また学習の段階としては、チームの連係や作戦を重視する「ステージ2」に移行したばかりである。したがって、やや安定感に欠け、自チームの特徴をつかみ切れていない状況で前時の学習を行った。本時の学習を行うことで、基礎技能面で向上したり、より効果的で妥当な作戦立てや練習が行われ、連係が深まったりすることをねらっている。</p> <p>○安全に気を付けて準備させる。 ○自分の役割を果たすことを意識させる。 ○よく使う体の部位を重点的に動かすよう促す。</p> <p>○技能のポイントを想起できる声かけをする。</p> <p>○前時のふりかえりから、うまく作戦立てや練習ができた児童のふりかえりを紹介し、意欲を高める。</p> <p>○ナイスプレー・声を賞賛する。 ○自チーム内はもちろん、ペアチームにも作戦を伝え、それが成功しているかチェックしてもらうようにする。</p> <p>○ペアチームの「アドバイス担当」を中心に、一言アドバイスをする。</p> <p>○筋道が立つよう、助言する。</p>	
<p>考 え る</p> <p>「ボールを落とさないでうまくつなぐ」、「相手コートにいい形で返す」 そのための作戦を考え、練習を工夫してチーム力を高めよう</p> <p>三段攻撃を目指すんだだね 最初のレシーブをセッターにしっかり返そう！ セーの、1、2、3！ OOさん、ナイスレシーブ！</p> <p>セッターにうまくつながっていたよ！ 予想外の所に飛んで行ったときのための準備ができていないよ！</p> <p>ゆずりあいが多かったよ。声を掛け合うといいのでは？ スパイクがアウトになりやすいね。</p>	<p>《評価》 適した作戦を立て練習している</p> <ul style="list-style-type: none"> ●うまかったりうまいかなかったりした具体的なプレーを例示し、そこから考えるよう促す ●練習方法について、状況設定等の助言をする 	
<p>こんな言葉が出てくる交流に</p> <ul style="list-style-type: none"> ・三段攻撃が上手になってきたから、ゲームで出せるようにたくさん練習しよう！ ・きびしい所に落とされそうなサーブに対応するレシーブの練習をしよう！ ・準備不足があるから、自分のボールでない時にどうすればいいか考えようよ。 	<p>こんな言葉が出てくる交流に+(プラス)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ペアチームが教えてくれたけど… (→仲間の助言を生かした作戦) ・前回よりOOがよくなったから… (→今までの経過を踏まえた作戦) ・今の作戦はうまくいっているよ… (→考えた練習についての評価) <p>学びを広げている姿・深めている姿</p>	

深めるとまめると

7 対抗ゲームを行う（前4分ー作戦1分半ー後4分）

やった！決まった！

三段攻撃ができたぞ！

□□さん、ナイスカバー！

なかなか△△さんにボールを集められない…

きびしいコースも拾ってつなげられたね

落下点！ 向き！

声をかけ合おう！

はい！〇〇さん！

準備や構えをしっかりとしようよ！

せっかく練習したのに…

8 片付け・整理運動をする

めざす子ども像 **意味づける**

9 チームごとに今日の成果と課題、次時で取り組むことを話し合ったあと、ペアチームで共有し、次時への見通しを持つ

こんな言葉が出てくる交流に

- ボールをコントロールできていないから、動きの基本と声から見直さないといけない。
- 前の人にパスをつなぐという作戦を立てて練習したら、大量得点で勝つことができたよ！そっちのチームもやってみれば？
- 今回はネットを越えるような高い位置でスパイクを打つ練習をしよう！

こんな言葉が出てくる交流に+（プラス）

- 〇〇さんの□□のプレーのように…（→具体的事例をとまなべて）
- 私たちのチームって…（→自分のチームの特徴（よさ・課題））
- さっきのアドバイスのおかげで…（→中間の助言に対する結果や感謝）

《評価》立てた作戦や行った練習を試合で生かそうとしている

- 作戦や練習を基に動いているかに注目させる

○励まし合っているチーム、作戦や練習を生かそうとしているチームを賞賛する。

○安全に気を付けて片づけさせる。

○よく使った体の部位を重点的に伸ばすよう促す。

○筋道が立つよう、助言する。

《評価》作戦-練習-試合の評価をし、次時の作戦を立てることができる

- 作戦や練習の成功状況について、具体的な事例をもとに伝える
- 次時の作戦について、妥当でない時には、その理由を伝え、再考するよう促す

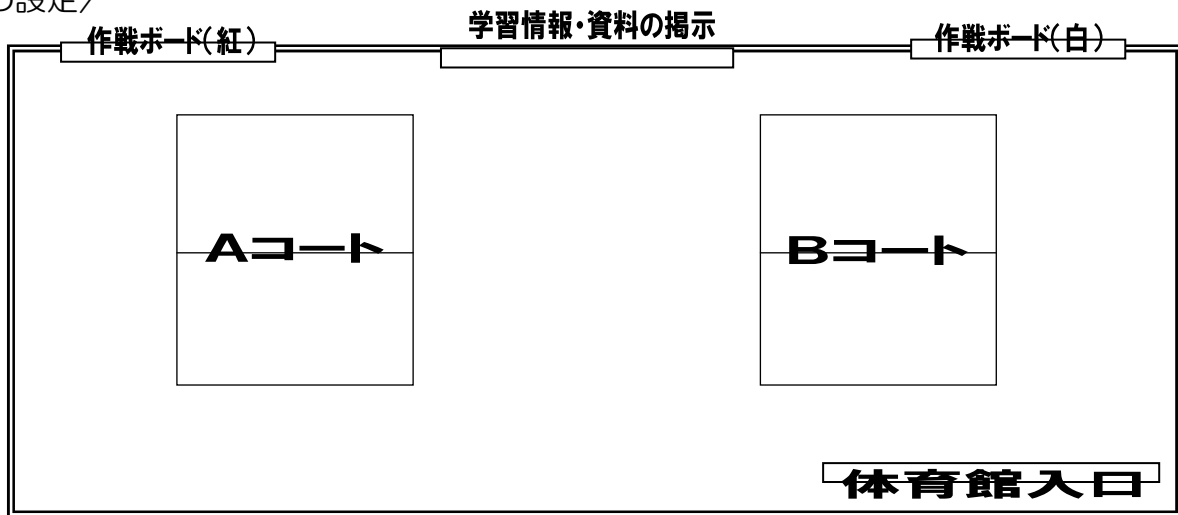
○けが等がなかったかの確認をする。

10 あいさつをする

※ルール変更についての意見等が出た時には、次時の最初の課題の確認時に話し合うこととする

学びを広げている姿・深めている姿

〈場の設定〉



先に述べた動的な言語活動、静的な言語活動を『言語活動の充実に関する指導事例集～思考力、判断力、表現力などの育成に向けて～【小学校版】平成22年 文部科学省』の、「第2章 言語の役割を含めた言語活動の充実」の「言語の役割を踏まえた言語活動の指導の在り方と留意点」をもとに整理すると次のようになる。

(1) 知的活動（論理や思考）に関すること（「思考・判断、技能面の学習に関連」）

- 見合い・教え合い …（動的） ⇒ 「ア）事実を正確に理解し、他者に的確にわかりやすく伝えること」
- 話し合い・カード記入 …（静的） ⇒ 「イ）事実等を解釈し説明するとともに、互いの考えを伝え合うことで、自らの考えや集団の考えを発展させること」

(2) コミュニケーションや感性・情緒等に関すること（「関心・意欲・態度面の学習に関連」）

- 励まし合い …（動的） ⇒ 「ア）互いの存在についての理解を深め尊重していくこと」
- ⇒ 「イ）感じたことを言葉にしたり、それらの言葉を交流したりすること」